

# ☆えほん☆

## 「だれかぼくをぎゅっとして！」

シモーナ・チラオロ／作・絵  
おびかゆうこ／訳 徳間書店 E4チラ

サボタは小さなこどものサボテン。サボタののぞみはだれかにぎゅっとしてもらおうこと。でもだれもサボタをだきしめてくれない。ところがある日のこと、だれかがサボタに近づいてきて…。

# あたらしい本のコーナー

## 「そりゃあもういいひだったよ」

荒井良二／作・絵  
小学館 E3アヲ

ぼくはぬいぐるみのクマ。ほんもののクマからはじめててがみをもらったよ。月がまるくなったらあそびにきてくださいって書いてあったから、でかけたんだ。まずはバスにのったよ。

## 「おじゃまなクマのおいだしかた」

エリック・パインダー／さく  
ステファニー・グラエギン／え  
三辺律子／やく 岩崎書店 E4クラ

あるさむい日、クッションやもうふをあつめて、きもちのいいほらあなを作った。ぼくはそこでだいすきな本をよもうとした。ところが、ほらあなの中にはすでになにかがいた。それはなんと「クマ」だった。

## 「おしゃれコーディネータ」

石崎なおこ／さく・え  
教育画劇 E3イン

ちいちゃんとようちゃんは、ゆめちゃんからおたんじょうびパーティーにおよばれ！おてがみには、“おしゃれをしてあそびにきてね！”とかいてある。ダンスをひっくりかえしてふくをえらんでいると、中からあらわれたウサギは、なんと！！

# ☆よみもの☆

## 「ケンガイにっ！」

高森美由紀／作 加藤休ミ／絵  
フレーベル館 931タカ

ネットゲームにはまってるオレ、俊、小5。夏休みの間、ばあちゃんちで過ごすことになった。いなかは圏外で、ネットも言葉も通じない。ゲームの世界では仲間がオレを待ってる。帰ろうとバス停まで夜道を歩いたが、バスは15時半で終わっていた。

## 「てんきのいい日はつくしとり」

石川えりこ／さく・え  
福音館書店 931イン

今日はいいおてんき。ちえちゃんたちきょうだいは、おばあちゃんといっしょにつくしとりにでかけた。おにいちゃんもおねえちゃんもつくしを見つけたけど、ちえちゃんは見つけれない。なきそうになったそのとき、おばあちゃんがよんだ。「こっちきてごらん。よーくみてごらん」。

## 「はいくしょうてんがい」

荻田 澄子／作 たごもり のりこ／絵  
偕成社 931カン

よるのしょうてんがいで、おみせのかんばんから、たこやきや、くりまんじゅう、スカートなどの絵がとびだしてきた。みんな、じぶんがいちばんだとゆずらない。そこで、まねきねこが、はいくできめようといひだした。

## 「迷いクジラの子守歌」

安東みさえ／著 PHP研究所  
931アン

かあさんとはぐれて迷子になってしまったクジラの子どもは、気がつくともるで知らない海に来ていた。近くにいたネンブツダイに「ぼくのかあさんを知りませんか？」と話しかけると、ネンブツダイの口からたくさんの稚魚が出てきた。彼らは親の口の中で、子どもたちを育てるのだという。

# ☆しらべもののほん☆

## 「いえができるまで」

砺波周平／取材・構成・写真  
ひさかたチャイルド 52

ぼくたちの家ができるんだって。たくさんの人が、たくさんの道具をもってやってきた。きそこうじをして、もくざいをくんで、いえのかたちをつくる。くみあがったら、2階からおもちやおかしをなげておいおいをしたよ。

## 「黄砂にいどむ」

みどり 高橋秀雄／作 新日本出版社 45

砂漠化が進む黄土高原。舞い上がる黄砂のせいで昼間でも暗く、乾いた土地では農作物も育たない。「雑草おじさん」と呼ばれる一前さんは、雑草を研究する大学の先生。黄土高原を作物が育つ土地にするため、まずは雑草を植えた。

## 「干したから」

森枝卓士／写真・文  
フレーベル館 59

トマトに大根、ぶどうにしいたけ、いかに魚、干したらみんな乾いてしわしわになるよ。世界には、カエルやコウモリ、ネズミの干物もあるんだって！でも、どうして食べ物も干すのかな？干したら何がかわるんだろう？

## 「それでも、海へ」

りくせんたかた い 陸前高田に生きる・  
安田菜津紀／写真・文 ポプラ社 36

津波でかわりはてた町を見て、海に出ないことを決心した漁師のじいちゃん。震災から1か月ほどたったある日、缶詰をおかずにご飯を食べていると、孫の“しゅっぺ”に「じいちゃんがとってきた白いお魚が食べたい」と言われた。